

## 別紙

早川ゴム株式会社

温室効果ガス削減計画

### 1 事業の概要

#### (1) 事業所の名称

早川ゴム株式会社 箕島工場

#### (2) 事業所の所在地

広島県福山市箕島町南丘5351番地

#### (3) 業種

工業用ゴム製品製造業

#### (4) 事業所位置図

別紙のとおり

### 2 計画の期間

本計画の期間は、2020年度を基準年度とし、  
2021年度から2025年度までの5年間とする

### 3 計画の基本的な方向

#### 1. 基本的な考え方

当社は、ゴム製品を設計・開発、生産する事業所として、持続可能な経済発展のため、以下の環境活動を実行します。

当社の製品及び事業活動において、地球環境に影響を与える側面に関して、技術的、経済的に可能な範囲で環境目的・目標を定め、汚染の予防と環境マネジメントシステムの定期的な見直しを行い、温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

#### 2. 方針

- 環境関連の法律、規制、協定およびその他の要求事項を遵守し、環境管理の向上と汚染の予防に努めます。
- 開発・設計の段階で、環境汚染物質の代替や資源の有効利用など、環境に配慮した製品の開発を行います。
- 製品および事業活動において、省資源・省エネルギーと廃棄物の減量化及びリサイクルに取り組みます。
- 事業活動における環境汚染物質の排出量削減に取り組みます。
- 当工場の全ての社員に対し、環境に関する意識の向上を図るため、教育・訓練を行います。

#### 4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

##### 【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
		平成2年度	基準年度 2020年度	直近年度 2021年度
二酸化炭素	燃料の使用		1135	1188
	他人から供給された電気の使用		2698	2756
合 計			3896	3944

##### 【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
		平成2年度	基準年度 2020年度	直近年度 2021年度
二酸化炭素				
合 計				

##### 【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )		
		平成2年度	基準年度 2020年度	直近年度 2021年度
メタン				
一酸化二窒素				
HFC PFC SF <sub>6</sub>				
合 計				

## 5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 2020	削減目標		目標年度 (令和1年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	3896	5	195	3701
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方	エネルギー起源CO <sub>2</sub> は排出量年1%の削減率とする。			

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 2020			原単位 削減目標	目標年度 2025		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO <sub>2</sub>							
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)			0.507	5			0.482
目標設定の考え方							

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

## 6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	A重油の使用量を1%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 省エネ型熱源機器への更新</li> <li>・ ドレン回収による廃熱の有効利用</li> <li>・ 配管、過熱設備の断熱と保温</li> <li>・ 蒸気供給圧力の適正化</li> <li>・ 重油⇒ガス燃料転換</li> </ul>
2	電力使用量の削減	電気の使用量を1%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冷暖房温度の適正管理</li> <li>・ 省エネ型電気機器への更新</li> <li>・ 高性能インバーター機器への更新</li> <li>・ 高効率照明器具への更新</li> <li>・ 休憩時の消灯の徹底</li> <li>・ 用水使用量の節約</li> <li>・ 生産性改善による稼働時間短縮</li> </ul>
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

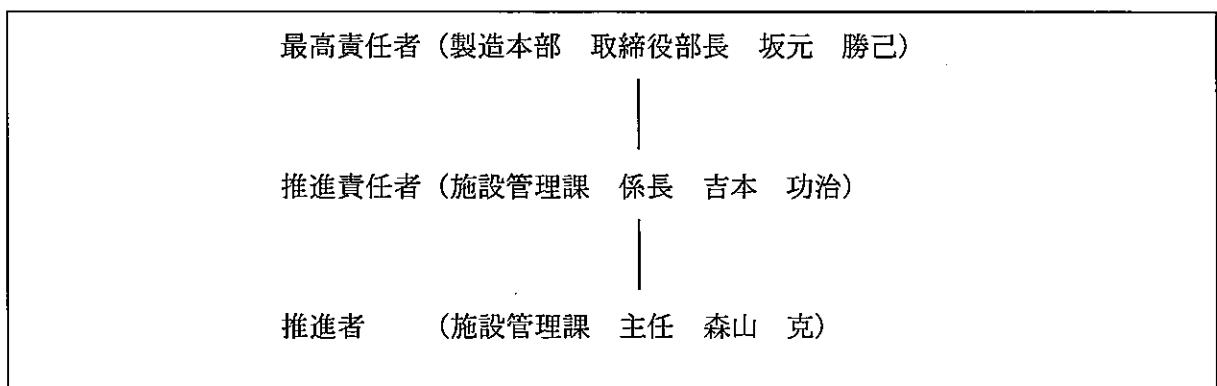
### ○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

## 7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

### (1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

施設管理課を中心として、毎年温室効果ガス削減計画の取組状況の把握・点検及び問題点の検討を行ないます。

環境管理委員会において定期的に評価と見直しを行ない、継続的な改善に努める。

(3) 計画書等の公表

推進室の施設管理課に備え付けて閲覧する。